



No.213

ティーブレイク

Tea Break

弁理士会、こんなこともやっています！

会員 瀧澤 匡則

日本国内では発明に関する様々な表彰があり、その中でも歴史のあるものとして公益社団法人発明協会の主催する全国発明表彰があります。全国発明表彰には、日本弁理士会も後援という形で関わっております。普段あまり目にすることのない方も多と思われる全国発明表彰について簡単に紹介したいと思います。

全国発明表彰は、我が国科学技術の向上と産業の発展に寄与することを目的に、大正8年（1919年）から始まりました。令和5年度からは、世界知的所有権機関（WIPO）による後援及びWIPO賞が新たに加わります。

概ね7月上旬から8月末頃まで応募の受付を行い、それから選考委員会による審査を行い、翌年の4月下旬に受賞者が発表されます。また、令和4年度の受賞者に関しては、6月30日にホテルオークラで表彰式が行われ、日本弁理士会の会長も表彰者として参加し、受賞者への賞状の授与を行って参りました。

表彰区分には、科学技術的に秀でた進歩性を有し、かつ、顕著な実施効果を挙げている発明等が対象の第1表彰区分と、科学技術的に秀でた進歩性を有し、かつ、中小・ベンチャー企業、大学及び公設試験研究機関等の研究機関に係る発明等が対象の第2表彰区分とがあり、区分ごとに発明等の応募を募り、表彰を行います。

「発明」表彰という名称を冠しておりますが、応募の

対象は、発明・考案・意匠とされており、令和4年度は、最高賞である恩賜発明賞を富士通株式会社の音を振動・光で知覚する身体装着装置の意匠（意匠登録第1640713号）が受賞しました。これは、入力された音を振動に変換するもので、Antennaという商品名でろう学校の体育の授業等で使用されているとのこと。音を振動に変換して伝えることで聴覚に障害のある子供たちが音楽に合わせて手をたたいたり、ダンスの練習をすることができるようになるのに役立っています。子供たちが身に着けて使用するものですので、コンパクトにかつかわいらしい形状が特徴的と言えるものです。

また、日本弁理士会会長賞は、マツダ株式会社の火花点火制御圧縮着火エンジン技術の発明（特許第6562164号）が受賞しました。この発明は、ディーゼルエンジンの技術をガソリンエンジンに適用する、という発想でされたものであり、実際に一部のマツダ車のエンジンに適用され燃費の向上に寄与している、とのことでした。

その他にも毎年多数の発明が表彰を受けております。もしかしらご自身のクライアントや自社の発明が表彰を受けているかもしれませんし、普段の業務では関わることのない面白い技術に出会うことができるかもしれません。皆さんもお時間のある時にどのような発明が表彰を受けているかご覧になってはいかがでしょうか。